



# 読書尚友

～読書をして昔の賢人を  
友にすること～

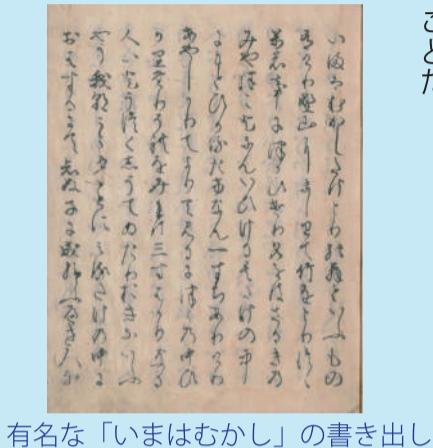
古典60選+a : グループ代表 阿部伸一郎

66 / 60+a  
『竹取物語』

作者不詳



九世紀後半から十世紀前半に書かれたであろう、この我が国最古の小説は、いつ誰が何の目的で書いたのか等など、分からぬことだけである。よつて、今回記すのは、乱れ飛ぶ諸説を繋ぎ合わせた上に、私見を交えた阿部伸一郎版『竹取物語』であることを予めお断りしておく。



有名な「いまはむかし」の書き出し

この物語の存在を知らない日本人は、まずいないであろう。だが、主人公である「かぐや姫」のイメージを通して、この著を童話と捉えている方が大半だと思う。しかし、実際は藤原不比等以降、天皇家と外戚関係を結ぶことで権力を独占し続けた藤原氏を愚るうする誹謗文書であつたのではないかと、私は思う。

この著を出すには、相当な危険が伴つた筈だ。その為、漢文が正当とされる時風の中で、あえて蔑まれた仮名文字で乙女を主人公におとぎ話し風に記した。つまり、カモフラージュである。故に、著者が名乗りり出る訳がない。だが、大方の予想はつく。作者推測の力ギは「藤原氏に恨みを持ち貴族社会の内情に精通した知識人」となる。だとすれば、私には、菅原道真か紀貫之しか思い浮かばない。二者に絞られた中で、私は紀貫之説を探る。その理由は次の二点だ。一つは、紀貫之という雅号にある。この名は、論語の「一以貫之」に由来し、「終始一貫信念を貫

うとしたもの、それは藤原氏に排斥された紀氏の末裔としての復讐心である。そして、二つ目は、貴之が仮名で記された『土佐日記』『古今和歌集仮名序』の一冊の著者であるということだ。当

時、貴族が仮名を使うことは、今までいえば男がスカートを履く様なもので尋常なことではないかった。貴之には、それを平気でなし得る鈍感力があつたということだ。

この物語の主要部分のあらすじは、「竹取の翁が竹の中から女の子を見付け出し育てた。かぐや姫と名付けられた彼女は絶世の美女へと成長する。すると、多くの男どもが集まってきた。その中から貴公子五人が選ばれ、や姫を娶ることとなつた。彼女が、それぞれに難題をぶつけると、だれ一人成し遂げることが出来ず醜態をさらして去つていく」というものである。

日本人が持つ独特の感性の源を創り上げた男が命を賭して書き上げた一作、それが私の思うところの『竹取物語』である。



そして、もう一つ。貴之が仮名を用いたのには、深い意味がある。それは、GHQが我が国の弱体化を目的に漢字を全廃しローマ字表記を強要しようとしたのと同じ発想で、唐の影響を強く受ける藤原氏のアイデンティティーの根底には漢文学が潜むと見越し仮名が遣唐使を廢止する。この英断は、貴之の改革に神風となる。唐との往来が途絶えると日本人の心に中華的思考とは対照的な、ものがあれみ、おもむき、わび、さびと言つた美意識が芽生え始めた。

貴之の思いとは裏腹に藤原支配は、摂関政治から五摂家と形を変えその後も長きに渡つて続いた。

だが、打倒藤原の手法として用いられた仮名文学は、同胞の精神にしなやかで情緒的なDNAを植え付けた結果となつた。

日本人が持つ独特の感性の源を創り上げた男が命を賭して書き上げた一作、それが私の思うところの『竹取物語』である。



大正9年（1920）。大井ダムが完成する4年前、地理学者の志賀重昂が「恵那峡」と命名し今年は、丁度100年目に当たる。この節目の年を見据えたリニューアル工事が、この春に完成した。



これまで恵那峡には、観光客が集う「へそ」がないと言われ続けていた。その為、公園の入り口には、ビジターセンターとテラス席が並ぶ「広場」が設けられた。欠けていたソフト面の充実も図られ、観光協会職員が常駐し訪れるお客様に恵那峡の楽しみ方の数々を提供する仕組みも出来た。ま

た、館内の壁には大型ビデオテレビとパネルが置かれ、恵那峡が出来るまでの歴史や豊かな自然の中に生育する花や野鳥などを学ぶことが出来る。そして、かつて藤棚の湖畔側に並んでいた建物は、ウッドデッキへと変わり湖面が一望出来る「広場」となった。前述した二つの「広場」は、使い方によっては、ひとつの大広場へと変身する。古今東西、「出会い」「娯楽」「活力」の中心には、広場の存在があった。広場は、まちの大切な資源だ。今後は、観光協会が窓口となり貸し出す。朝市、バザール、リサイタル、パーティーなど等、大いに活用して頂きたい。

その他にも、桃介公園、さざなみ公園、湖畔・森林散策路など等、書きだしたら到底紙面に収まらない。今年は、生憎のウィルス騒動で、4月に開催される予定だった、

全国さくらシンボジュウム in 恵那も花火大会も全て中止となってしまった。

まだ生まれ変わった恵那峡を訪れていない方も多くいる。百聞は一見に如かず、である。是非一度、リニューアルされた恵那峡を散策して戴きたい。

各種お問い合わせ：恵那市観光協会 0573-25-4058



テラス広場

ウッドデッキ広場



ベンチから望む渓谷美

Aの瓶からさらに1個取り出します。  
これでAが2個、Bが2個になります。

4個全てを半分にします。

そして二つに分けます。

二つに分けた4個は必ず、

Aの半分が2個、Bの半分が2個となります。

これを飲めば1日分となります。

残った分は明日飲みます。

（あるいは、4個を粉々にして混ぜて半分にするのも正解です）

さて、どちらを選ぶべきでしょうか？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？

？